



平塚市民病院

令和4年度職員行動計画書

実績

★ビジョン★

「持続的な健全経営の下、高度医療、急性期医療及び政策的医療を担い、患者さんの生命（いのち）を守る診療を行う」

★令和4年度のキー・フレーズ★

新入院患者の増加

「入退院支援の強化による質の向上」

「病院を知ってもらえる情報発信」

「ウィズコロナにおける更なる新入院患者の確保」

令和4年度職員行動計画書実績

・内科(腎臓内分泌代謝内科)・1	・救命救急センター
・呼吸器内科・・・・3	(救急科・救急外科)・・・・54
・消化器内科・・・・5	・麻酔科・・・・57
・循環器内科・・・・7	・看護科・・・・59
・神経内科・・・・10	・ICU・CCU・・・・62
・緩和ケア内科・・・・12	・薬剤科・・・・64
・精神科・・・・14	・放射線技術科・・・・66
・小児科・・・・16	・臨床工学科・・・・68
・外科・・・・18	・臨床検査科・・・・71
・呼吸器外科・・・・20	・栄養科・・・・73
・消化器外科・・・・22	・医療安全管理室・・・・75
・血管外科・・・・24	・感染対策室・・・・78
・心臓血管外科・・・・26	・入退院支援・医療相談室
・脳神経外科・・・・28	・・・80
・乳腺外科・・・・30	・経営企画課・・・・83
・整形外科・・・・32	・病院総務課・・・・85
・形成外科・・・・34	・医事課・・・・87
・皮膚科・・・・36	
・泌尿器科・・・・38	
・産婦人科・・・・41	
・眼科・・・・43	
・耳鼻咽喉科・・・・45	
・リハビリテーション科・	
リハビリテーション技術科・47	
・放射線診断科・・・・49	
・放射線治療科・・・・52	

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	内科	総括責任者	部長	厚川 和裕
—		副責任者	主任医長	唐澤 隆明

I 医療の質と効率の視点		【将来構想】50～52ページ
経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①開業医と密接に連携をとり、病診連携を推進します。糖尿病性腎症重症化予防事業を推進します。
- ②血液浄化療法(急性・慢性)を充実します。
- ③新型コロナウイルス感染症に対応可能な医療体制を実現します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
開業医との連携による逆紹介の推進	医師	逆紹介率	130.00%	70.90%	102.20%
糖尿病性腎症重症化予防プログラムを充実させる	医師, 管理栄養士, 看護師, 病診連携室	紹介率	70.00%	40.34%	40.06%
紹介患者に関する返書の実施	医師	1週間以内返書率	60%	33.30%	39.2%

II 患者満足度の視点		【将来構想】53～55ページ
経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①慢性腎臓病患者の腎代替療法選択のための支援を拡充します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
腎代替療法選択のための説明・相談の充実	医師, 看護師	療法選択選択指導回数	150回以上	158回	151回
腹膜透析治療を充実させる	医師, 看護師, 管理栄養士	腹膜透析新規導入患者数	1名	1名	—

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	内科	総括責任者	部長	厚川 和裕
—		副責任者	主任医長	唐澤 隆明

Ⅲ 経営・財務の視点 【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①入院患者を確保することで、入院稼働額の増を目指します。
②職員のコスト意識向上に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
開業医との連携や新しい治療法による入院患者数の確保	医師	年間新入院患者数	1,570人	1,914人	1,568人
業務効率化による時間外勤務の削減	医師	1人当たり時間外勤務時間数(月)	月80時間を超えないようにする	25時間0分	36時間12分
適正な入院期間での退院	医師	期間尺度(DPC入院期間 I、IIの割合)	60%以上	56.1%	52.2%

Ⅳ 職員の学習と成長の視点 【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度(やりがい度)の獲得(職場環境、研修・教育、評価と処遇改善)
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

職員向け院内研修会での参加や発表を通して自己の研鑽や他の職員の啓蒙に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
院内研修会での発表	医師	職員向け院内研修会での発表数	3～4回	1回	3回
院内研修会への参加	医師	職員向け院内研修会の1人当たりの参加数	1人年6回	1人年5.2回	1人4～6回

Ⅴ 社会貢献の視点 【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献(災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など)
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

予防医療や災害医療等についての研究会、連絡会への参加を通して地域医療機関との連携を強化します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
地域医療機関主催の研究会、連絡会への参加	医師	参加回数	年3回	1回	年2回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	呼吸器内科	総括責任者	医長	高橋 史成
—		副責任者		

I 医療の質と効率の視点 【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①放射線治療科、呼吸器外科との連携により肺癌治療の迅速化に努めます。
②びまん性肺疾患患者に対する適切な医療を提供します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
肺癌カンファレンスの定期開催	医師	治療開始までに要した日数	呼吸器外科/放射線治療科 40日	36日	36日
呼吸器外科との連携強化	医師	肺癌患者紹介数	30件	約20件	28件
びまん性肺疾患の症例の受け入れ	医師	入院者数	100例	20例/年	不明

II 患者満足の視点 【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①外来患者さんに快適な受診環境を提供します。
②最先端の治療・検査を組み入れた管理を提供します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
外来待ち時間の短縮	医師	診療時刻－受付時刻	20分	34分	20分
外来生物製剤注射 待ち時間の短縮	医師	診察終了－注射時間	30分	30分	30分
呼気NOやモストグラフを入れた肺機能検査の実施。初診日に実施し早期診断を目指す。	医師	初診日から1か月以内の臨床症状の改善度の評価	60%	60%	60%

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	呼吸器内科	総括責任者	医長	高橋 史成
—		副責任者		

Ⅲ 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①患者を現在以上に大切に思いやりリピーターを増やします。
- ②呼吸器内科への入院患者数を一定数維持します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
入院患者の確保・維持	医師	年間新入院患者数	260人	159人	255人
肺癌の化学療法	医師	年間入院患者数	80例	12例	80例

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①RST回診を継続します。
- ②ASTカンファレンスへ参加します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
RST回診患者	医師	患者数	100例	104例	—
ASTカンファレンスへの参加	医師	参加率	90%以上	100%	—

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①びまん性肺疾患研究グループカンファレンス（東海大学医学部附属病院）への参加し、研鑽に努めます。
- ②学会への積極的に参加し、最新の知見を得るように努力します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
他病院との合同カンファレンスへの参加	医師	出席率	90%以上	100%	—
学会・地方会への参加	医師	出席回数	3回以上	1回	—

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	消化器内科	総括責任者	部長	厚川 和裕
—		副責任者	主任医長	谷口 礼央

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ① 地域との連携を重視した地域医療体制への貢献、安定した診療報酬を確保します。
(現状、良好な連携数値を達成しているため、現況の継続)

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
開業医との連携による紹介患者の獲得	医師	紹介患者数	1,150人	1,406人	1,108人
開業医との連携による逆紹介の推進	医師	逆紹介患者数	1,750人	1,651人	1,731人

II 患者満足度の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ① 診療待ち時間を短縮します。
② 高度な医療を提供します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
医師の業務効率改善	医師	患者1人当たりの平均診察待ち時間	セット入力などの充実	胃ESDパス 大腸ESDパス	---

III 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

- ① 医療点数に対する若手の教育を行い、診療単価の向上を図ります。
② 処置件数の増加を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
適正な入院期間での退院	医師、看護師、退院支援室	期間尺度(DPC入院期間 I、IIの割合)	60%	57.5%	55.5%
開業医との連携による入院患者の確保	医師	新入院患者数	1,357人	1,218人	1,237人
ERCP処置数の増加(現状当該医療圏 第2位の件数を実施している)	医師	20件増加	384件	341件 (▲23件)	364件
ESD処置数の増加(2018-2021連続で関東圏約30位の件数を実施している)	医師	10件増加	194件	197件 (+13件)	184件

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	消化器内科	総括責任者	部長	厚川 和裕
—		副責任者	主任医長	谷口 礼央

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ① 更なる教育体制の拡充を図ります。
- ② 救急業務などの自科以外の職務について、一人当たりの負荷を軽減します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
専門医資格の取得励行	医師	該当年時における専門医資格の取得	同右。	内科専門医3人	消化器病専門医、内視鏡専門医などの取得
各医師内視鏡手技の向上	医師	ERCP、ESDなどの内視鏡手術の習熟	上記内視鏡件数増加により達成を目指す	総内視鏡件数6,323件（前年5,800件）	R2年度の処置件数+10%（R3実績では達成済み）
消化器内科医の補充	医師	医師+2人により、一人当たりの業務量の軽減	同左（R4年度達成済み）	スタッフ▲1人	—

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ① 地域救急医療を支えます。
- ② 開業医との連携します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
地域救急への貢献	医師	三次救急への貢献	同右	内科救急8/10枠消化器内科で実施	内科救急対応、当直業務などへの対応
開業医との連携	医師	クロスピッチ運用	クロスピッチへの対応など（本年も当科で対応）	クロスピッチ運用時は現状通り対応していました。	クロスピッチへの対応等（全て当科で対応）

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	循環器内科	総括責任者	部長	高木 俊介
—		副責任者		

I 医療の質と効率の視点 【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①循環器救急疾患(特に急性心筋梗塞)診療の充実に努めます。
- ②近隣医療機関との連携強化、役割の明確化に努めます。
- ③医療効率の人的・時間的・経済的向上を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
開業医との連携による逆紹介の推進	医師	逆紹介率	200%	276.25%	301.81%
急性心筋梗塞、急性期診療体制の充実	医師、看護師、ME、放射線科技師	症例数	80件	89件	78件
働き方改革に基づき、医師業務のタスクシフトを取り入れます。	医師、看護師、ME、放射線科技師	時間外勤務時間数	80時間/月以内	1人当たり51時間54分/月	1人当たり46時間42分/月
クリニカルパス見直し等による入院期間の短縮に努めます。	医師、その他多職種	入院期間尺度の増加	65%	70.7%	60.5%

II 患者満足の視点 【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①市民病院に対する市民の評価向上を図ります。
- ②高齢化に伴う疾患増加率の高い心不全患者の診療満足度向上に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
医師・心不全認定看護師によるコラボレーション外来を開設し、対象患者を増やします。	医師・心不全認定看護師	対応患者数	11人/月 132人	10.9人/月 131人	10人/月 120人
常勤医の緩和医療研修会への参加	医師	参加人数	2人	3人	0人

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	循環器内科	総括責任者	部長	高木 俊介
—		副責任者		

Ⅲ 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①紹介患者、救急患者など新入院患者増加に努め、入院稼働額の増加を目指します。
②職員のコスト意識の向上に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
紹介患者獲得のための開業医訪問	医師、事務	開業医訪問件数	12件/年	13件/年	0回(医師同伴)
救急搬送患者受け入れによる重症患者確保	医師	救急搬送患者受入数	265人	323人	261人
PCI件数(緊急症例・待機的症例)の増加	医師	年間PCI件数	150～200件	180件	123件
新入院患者増加を目的とした広報活動(市民向け講演会、市広報誌への執筆、ホームページ変更など)	医師、事務	講演数、執筆数など	2回	2回	0回
諸取り組みによる紹介率アップ	医師、事務	紹介率	85%	94.25%	83.97%

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①職員の能力向上と病院経営の理解に努めます。
②大学学位取得のための研究日確保に努めます。
③これまで不十分であった有給休暇取得を推進し、職員満足度向上に努めます。
④専門医取得を奨励し、学会での格上げを目指します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
学会・院外研修会への参加	医師	参加回数	各人3～4回	計15回	—
有給休暇取得	医師	有給休暇取得日数	最低5日間	1人平均9.9日	1人平均3.75日 (R4.3中旬まで)
CVIT研修関連施設から研修施設への格上げ	医師	PCI症例数(200症例以上)	150～200件	180件	123件

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	循環器内科	総括責任者	部長 高木 俊介
—		副責任者	

V 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①論文、学会発表などの学術活動の充実を図ります。
- ②将来の医療の担い手である学生教育に貢献します。
- ③市民の健康・医療に関する関心を高めるのに貢献します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
論文・学会発表数	医師	発表数	2回	4回	1回
学生実習の受入数	医師	受け入れ学生数	3人	2人	2人
市民向け講座の開催	医師	開催回数	1～2回	1回	0回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	神経内科	総括責任者	部長	田川 朝子
—		副責任者		

I 医療の質と効率の視点		【将来構想】50～52ページ
経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

地域の病院、開業医との連携により、脳梗塞をはじめ神経内科領域の疾患を幅広く診療していくよう努めます。

	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
脳卒中ホットラインの開設	神経内科、脳外科 医師	脳卒中ホットラインの 開設	開設	開設	-

II 患者満足の視点		【将来構想】53～55ページ
経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんの のために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①入院診療の充実をはかります。
- ②職員のコスト意識への向上にとりくみ、コスト削減をめざします。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
脳卒中ホットライン、救急からの急性期患者 の積極的な入院受入れ	医師	新入院患者数	年間200人以上	206人	84人

III 経営・財務の視点		【将来構想】56～61ページ
経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

専門外来での多発性硬化症、視神経脊髄炎診療の更なる充実をめざします。認知症加算が継続してとれるよう、診療体制を、精神科との連携により、充実させます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
地域の非専門医への啓蒙活動	医師	患者紹介者数	300人	365人	255人
当院看護師やSW, など他職種スタッフとの情 報交換、カンファレンスを行います	医師	カンファレンス	年2回	6回	0回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	神経内科	総括責任者	部長	田川 朝子
—		副責任者		

IV 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

職員の能力向上と病院経営の理解に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
学会、院外研修会への参加	医師	参加回数	年一人当たり3回	年一人当たり6.3回	年一人当たり4回以上
学会、講演会での実際の発表の機会をつくりま	医師	発表回数	一人当たり年1回以上	1人当たり年3.3回	総合年10回以上

V 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

学術活動の充実を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
論文作成を積極的に行います	医師	作成本数	2本以上	1本	0本

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	緩和ケア内科	総括責任者	部長	高木 俊介
—		副責任者	看護科長代理	大津 聡美

I 医療の質と効率の視点		【将来構想】50～52ページ
経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標					
①緩和ケアを必要とする患者さんを積極的に拾い上げ、多職種からなるチームアプローチで質の高い緩和ケアを実現します。 ②患者さんが気軽に相談できる窓口(がん相談支援センター)の充実を図ります。					
目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
「苦痛のスクリーニング」の実施	医師、看護師、薬剤師	実施件数	1,800件	1,979件	1,684件
がん相談支援センター	がん専門相談員	実施件数	210件	—	198件
多職種での合同カンファレンス(緩和ケア委員会において)	医師、看護師、薬剤師、管理栄養士	実施件数	12件	—	10件

II 患者満足度の視点		【将来構想】53～55ページ
経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標					
①患者さんひとりひとりの苦痛や悩み(身体的、精神的、社会的、スピリチュアル)を和らげる関わりをします。 ②がん患者会等、患者さん同士が医療者との安全に語り合える場を提供します。					
目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
緩和ケアチームでのカンファレンス/回診	医師、看護師、薬剤師、管理栄養士	実施回数	週4回	上半期:週4回 下半期:週1回	週4回
がん患者の会「なでしこの会」開催	医師、看護師、薬剤師、管理栄養士	開催回数	年3回(web)	1回	0回
緩和ケア週間(相談、啓発イベント)の開催	医師、看護師、薬剤師、管理栄養士	開催回数	年1回	0回	0回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	緩和ケア内科	総括責任者	部長	高木 俊介
—		副責任者	看護科長代理	大津 聡美

Ⅲ 経営・財務の視点 【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①緩和ケア内科の診療依頼件数の増加を目指します。
 ②がん診療に携わるすべての医師が「緩和ケア研修会」を受講し、がん性疼痛緩和指導管理料を算定します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
入院緩和ケア診療加算(390点)	医師、認定看護師	算定患者数	1,200件	501件	1,060件
癌性疼痛緩和指導管理料(200点)	医師	算定患者数	200件	169件	193件

Ⅳ 職員の学習と成長の視点 【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度(やりがい度)の獲得(職場環境、研修・教育、評価と処遇改善)
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①緩和ケアチームを中心に病棟でのカンファレンス、情報共有し、病棟での緩和ケアの充実を図ります。
 ②病棟での疾患に沿った勉強会を実施します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
病棟おしかけ勉強会の実施	PCT、病棟看護師	実施回数	8回	3回	7回

Ⅴ 社会貢献の視点 【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献(災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など)
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

関連学会へ積極的に参加し、院内取組を発表します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
関連学会参加/発表	医師	回数	2回	1回	0回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	精神科	総括責任者	科医長 森長 修一
—		副責任者	

I 医療の質と効率の視点		【将来構想】50～52ページ
経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

院内他科との連携を強化し、入院患者のせん妄発症予防に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
せん妄対応マニュアルの改訂	医師、看護師	マニュアルの改訂状況	完成	完成	なし
マイスリーの院内採用の中止	医師	マイスリーの削除	達成	達成	なし

II 患者満足の視点		【将来構想】53～55ページ
経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さん のために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

患者さんやその家族に分かりやすい情報発信を行います。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
せん妄に関する説明資料の改訂	医師、看護師	資料の改訂状況	完成	完成	なし

III 経営・財務の視点		【将来構想】56～61ページ
経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

コスト意識向上に資する取組により、加算の取得に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
認知症サポートチームの結成	医師、看護師、 PSW、CP	認知症ケア加算の算定	算定開始	算定開始	なし

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	精神科	総括責任者	科医長 森長 修一
—		副責任者	

IV 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

医療知識及び技術習得に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
院内研修会への参加	医師、看護師、PSW、CP	参加回数	1人当たり年6回	1人当たり年4.25回	-
学会、院外研修会への参加	医師、看護師、PSW、CP	参加回数	1人当たり年3回	1人当たり年3回	-

V 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

学術活動の充実を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
学会研究発表	医師、看護師、PSW、CP	発表数	年2回	0回	年1回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	小児科	総括責任者	部長	福島 直哉
—		副責任者		

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①質の高い高度医療を提供するため、紹介患者を中心とした診療を展開します。
- ②小児救急・周産期救急医療維持のため必要な小児科医を確保します。
- ③産科と連携し、地域の産婦人科開業医からの新生児・母体搬送を積極的に受け入れます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
紹介患者獲得のための開業医との連携	医師	紹介数	1,000人	1,026人	982人
開業医への逆紹介の推進による外来業務の効率化	医師	逆紹介数	300人	375人	287人
小児救急・周産期救急医療体制維持のため必要な小児科医の確保	医師	小児科医師数 (病院長を除く)	10人	8人	8人

II 患者満足度の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①24時間、365日小児・新生児の受け入れに努力します。
- ②小児病棟・NICU・GCUにぬくもり空間を作ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
小児救急・周産期救急医療体制のため必要な小児科医の確保	医師	小児科医師数 (病院長を除く)	10人	8人	8人
クリスマス会などの各種イベントの開催	医師・看護師・保育士	イベント・読み聞かせ 開催数	2回	0回	0回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	小児科	総括責任者	部長	福島 直哉
—		副責任者		

Ⅲ 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

空床を減らし病床を有効に活用します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
予定入院増加による空床の有効活用	医師	予定入院数	150件	75件	175件
新入院患者数の増加	医師	新入院患者数	796人	603人	705人

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

職員の能力向上と病院経営の理解に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
学会、院外研修会への参加	医師	参加回数	1人あたり年3回	1人あたり年2回	1人あたり年1.5回

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

論文・発表などの学術活動の充実を図ります。市民の健康・医療に関する関心を高めるのに貢献します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
学会研究発表	医師	発表数	年3回	5回	年2回
小児科に関心のある学生の実習受入	医師	学生実習受入数	3人	4人	2人
市民・患者サービスの向上のため、市民向け講座の開催	医師	市民向け院内講座の開催回数	2回	2回	2回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	外科	総括責任者	部長	高野 公徳
—		副責任者		

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①手術(高度な医療)が必要な患者に24時間365日、一件でも多く質の高い外科手術を提供します。
- ②双方で顔の思い浮かぶ病診連携により入院期間の短縮および外来診療の縮小を目指します。
- ③多職種連携チームの活動を通じてSSIの減少に取り組みます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
技術習得等による手術実行数の増	医師	消化器外科、乳腺外科、血管外科、呼吸器外科、救急外科の手術件数	1,200件/年	1,389件/年	1,153件/年
信頼関係の強い病診連携先数を得るための開業医訪問回数増	医師、事務職	訪問回数	2回/月 以上	9回/年	5回/年
SSI(術後創感染)発生率の減	医師、事務職	消化器外科でのSSI発生率	5.0%未満	5.9%	4.4%
退院時診療情報提供の積極的な実施	医師	消化器外科、乳腺外科、血管外科、呼吸器外科、救急外科全体での退院時診療情報提供書の作成率	40% 以上	23.7%	34.6%

II 患者満足度の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

分かりやすい説明により、患者さんが安心して受診できる体制を整えます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
ホームページの充実	医師、薬剤師	外科ホームページの更新回数	3回/年	4回	1回/年
術式・疾患に対応したICフォームの作成	医師	ICフォームの総数	10種類 以上	21種類	3種類

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	外科	総括責任者	部長	高野 公徳
—		副責任者		

Ⅲ 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

収入確保と支出削減に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
手術を数多く行うことによる診療稼働額増及び診療単価増	医師	消化器外科、乳腺外科、血管外科、呼吸器外科、救急外科の手術件数	1,200件	1,389 件/年	1,153件
サージレートの解析結果を業者、事務職と協力して分析し、手術に関する支出を減少させる	医師・事務職・業者	実施	実施	実施	実施

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

外科専攻医およびスタッフの専門医資格の取得を積極的に支援します

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
教育的カンファレンスの充実	医師	実施	3回/週	3 回/週	3回/週
新規専門医資格の取得	医師	取得件数	3件/年	5 件/年	4件/年

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

論文・発表などの学術活動の充実を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
論文発表	医師	発表数	5編/年	3編	10編/年
市民向け講座の開催	医師	開催回数	2回/年	0回	0回/年

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	呼吸器外科	総括責任者	部長	須賀 淳
—		副責任者		

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①地域連携により外来診療効率化や紹介患者の確保に努めます。
②業務の見直しや教育などにより入院診療の効率化に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
開業医へのチラシ配布や訪問などによる紹介患者の確保。肺癌検診読影会での指導。	医師	紹介率	前年度比5%増	83.87%	131.25%
患者紹介による手術件数の確保	医師	手術件数	60件	45件	61件
クリニカルパスの導入	医師、看護師、事務職	パスの作成、運用	1	2	0

II 患者満足度の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

診療の質を向上することで患者満足度を改善します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
平均在院日数の短縮による患者負担の軽減	医師	平均在院日数	前年度比5%減	5.4日	6.5日
術後合併症による再手術の減少	医師	術後再手術件数	0件	0件	0件

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	呼吸器外科	総括責任者	部長	須賀 淳
—		副責任者		

Ⅲ 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

病床稼働率の向上や適切な医材使用による収入確保に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
在院日数の最適化などによる入院診療単価の増加	医師	入院診療単価	前年度比 5%増	144,391円	147,855円
地域連携に基づく入院患者数の確保	医師	新入院患者数	110人	106人	105人
手術毎の自動縫合器超過使用本数の削減	医師	自動縫合器超過使用本数	前年度比 5%減	11本	13本
高額医材費使用の見直し、安価で質の良い医材導入検討	医師	医材費	前年度比 5%減	12,706,585円	17,307,537円

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

前期後期研修医向けの勉強会、病棟看護師向けの勉強会を開催します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
前期後期研修医向けの勉強会	医師	手術・処置などの勉強会	5回/年	12回/年	—
看護師向けの勉強会	医師	手術・処置・ドレーン管理などの勉強会	1回/年	1回/年	—

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

学術活動と診療の両立を目標とします。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
学会発表	医師	学会発表回数	3回/年	3回	2回/年
論文発表	医師	論文発表回数	1回/年	0回	0回/年

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	消化器外科	総括責任者	部長	平田 玲
—		副責任者		

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供
		地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

より多くの症例に対応し、医療の質の向上を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
一般消化器外科手術症例数の増加	医師	手術症例数	800件	911件	786件
ロボット支援下直腸手術の導入	医師	手術症例数	3件	0件	0件

II 患者満足の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現
		患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

より詳細な情報発信により、安心して受診していただける環境を構築します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
病院ホームページの充実	医師	内容の充実	より詳細な記載	2件(手術症例数の推移の表記、トピックスの表記)	詳細な記載

III 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

多くの症例の手術に対応することで、患者を確保するとともに、収入増を目指します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
手術症例の増加による入院診療単価の増	医師	入院診療単価	前年度比5%増	112,482円	108,252円
新入院患者数の増加	医師	新入院患者数	750人	809人	718人

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	消化器外科	総括責任者	部長	平田 玲
—		副責任者		

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

職員の能力向上と病院経営への反映に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
学会への参加	医師	参加回数	1人あたり年3回以上	1人あたり年1～2回	1人あたり年1～2回

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

論文・発表などの学術活動の充実を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
論文発表	医師	発表回数	年3編	3編	年2編
学会発表	医師	発表回数	年20回	13回	年16回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	血管外科	総括責任者	科医長	林 啓太
—		副責任者		

I 医療の質と効率の視点 【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①低侵襲治療を積極的に導入し、在院日数削減を目指します。
- ②効率的な業務遂行のため、業務内容の定型化を目指します。
- ③チーム医療を強化します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
DPC入院期間Ⅱまでの退院	医師	期間尺度(DPC入院期間Ⅱまでの退院率)	80%以上を維持	86.3%	84.2%
クリニカルパスの導入	医師・看護師	クリニカルパス実施数	50件	84件	40件
他科との連携	医師	手術症例数	60%	63%	52.23%

II 患者満足度の視点 【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①患者さんに最新の情報を分かりやすく発信します。
- ②患者満足度向上を目指します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
手術説明文書・同意書の見直し	医師	見直した資料の種類	全種類	0種類	0種類
外来の待ち時間縮小	医師	外来待ち時間	30分以内	50分	19分
血管外科・血管センターホームページの拡充	医師・経営企画課	更新頻度	1回以上/半年	1回	0回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	血管外科	総括責任者	科医長	林 啓太
—		副責任者		

Ⅲ 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①従来の手術件数を維持します。
- ②診療科稼働額維持、査定率減少による増収を目指します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
手術件数の維持	医師	手術件数	200件以上	281件	224件
診療科稼働額の維持	医師	診療科稼働額(入院)	150,000,000円以上	209,758,581円	125,727,837円
詳細な症状詳記記載による査定率の減少	医師	査定率	1次査定 1%以下	0.26%	0.64%

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度(やりがい度)の獲得(職場環境、研修・教育、評価と処遇改善)
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①他職種の知識と技術向上を目指します。
- ②専門分野に関する最新の知見を積極的に獲得していきます。
- ③適切かつ効率的な休暇が取れる職場環境を目指します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
他職種向けの勉強会の開催	医師	開催回数	2回以上	0回	0回
学会への参加	医師	参加回数	2回以上	2回	1回
有給休暇の取得	医師	取得日数	10日以上	18日	14日

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献(災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など)
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①開業医との地域連携を強化します。
- ②当院での活動内容を積極的に体外へ報告して参ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
開業医への訪問	医師、事務	訪問件数	3件以上(近隣透析クリニックなど)	0回	0件
学会、講演会での発表	医師	発表回数	2回以上	1回	0回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	心臓血管外科	総括責任者	部長	笠原 啓史
—		副責任者		

I 医療の質と効率の視点 【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ① 紹介患者獲得のため、循環器内科医との病診連携の継続と新規開拓を行います。
- ② 低侵襲手術（大動脈ステントグラフト内挿術、低侵襲心臓手術MICS）を提供します。
- ③ 心臓大動脈疾患の緊急症例（急性期・救急医療）に対応します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
紹介患者獲得のため病診連携の継続	医師	紹介入院件数	60件	79件	59件
低侵襲胸部大動脈手術およびMICS	医師	手術件数	10件	9件	6件
心臓大動脈疾患の緊急症例に対応	医師	手術件数	15件	26件	19件

II 患者満足の視点 【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ① 患者さんの負担を軽減する治療を目指します。
- ② 地域の広報誌へ掲載します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
患者さんに分かりやすい手術説明	医師	苦情件数	0件	0件	0件
親切かつプライバシーに配慮した病棟回診	医師、看護師	感謝・お褒めの言葉	2件	4件	3件
地域情報誌への掲載依頼	医師	掲載数	1件	0件	1件

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	心臓血管外科	総括責任者	部長	笠原 啓史
—		副責任者		

Ⅲ 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①紹介患者獲得のため、循環器内科医との病診連携の継続と新規開拓を行います。
 ②輸血、点滴、抗生剤などについて、必要最低限の使用を目指します。
 ③内視鏡併用低侵襲心臓手術(MICS)を導入し、新規症例の獲得を目指します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
紹介患者獲得のため病診連携の継続	医師	紹介入院患者数	60人	79人	59人
無駄な薬剤使用の是正	医師	査定率	0.25%以下	0.76%	0.21%
新入院患者数の増加	医師	新入院患者数	150人	138人	121人

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

職員の能力向上のための機会を提供します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
研修医のための心臓手術シミュレーション	医師	当科ローテート研修医	1人	23人	0人
心臓血管外科のドライラボによる手術シミュレーション	医師	受講人数(延べ人数)	6人	6人	3人

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①アカデミックサーजनとして業績を構築します。
 ②近隣病院循環器科との連携会・研究会などを開催します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
論文数	医師	論文数	1編	0編	1編
学会発表	医師	学会発表数	5回	7回	7回
他院の循環器科との連携会・研究会など	医師	研究会実施数	3回	4回	2回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	脳神経外科	総括責任者	部長	中村 明義
—		副責任者	医長	黒島 義明

I 医療の質と効率の視点		【将来構想】50～52ページ
経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標					
①地域医療支援のため、紹介及び逆紹介を積極的に行います。 ②重症患者の診療を中心に行うため、手術室の有効利用を図り、手術件数の増加に努めます。					
目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
開業医との連携による紹介の推進	医師	紹介数	160人	109人	145人
開業医との連携による逆紹介の推進	医師	逆紹介数	390人	422人	372人
紹介、救急症例の増加による手術件数の増加	医師、看護師	手術件数	200件	186件	164件

II 患者満足度の視点		【将来構想】53～55ページ
経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さん のために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標					
重症患者を受け入れ、いつでも緊急手術に対応可能な体制を整備します。					
目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
緊急手術件数の増加	医師、看護師	緊急手術件数	150件	136件	109件

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	脳神経外科	総括責任者	部長	中村 明義
—		副責任者	医長	黒島 義明

Ⅲ 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①入院患者を確保することで入院稼働額の増を目指します。
②職員のコスト意識向上に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
新入院患者数の増加	医師	新入院患者数	350人	319人	342人
重症患者確保による入院診療単価の増加	医師	年間入院診療単価	90,000円	75,875円	79,194円
1日当たり平均入院患者数	医師	1日当たり平均入院患者数	18人	18.4人	16.6人
DPC入院期間Ⅱまでの退院	医師、看護師、MSW	期間尺度(DPC入院期間Ⅱまでの退院率)	80.00%	48.6%	62.7%
業務の効率化による時間外勤務の削減	医師	1人当たり時間外勤務時間数	60時間	59時間18分	1人当たり63時間18分/月

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

専門研修基幹施設との連携強化を行います。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
専門研修基幹施設との研修会への参加	医師	参加数	年3回/科	3回	3回

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

論文・発表など学術活動の充実を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
論文数	医師	論文数	3編/科	1編	4編
研究発表	医師	発表数	3回/科	1回	1回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	乳腺外科	総括責任者	部長	米山 公康
—		副責任者		

I 医療の質と効率の視点 【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

対外的活動を増進します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
市主体乳がん検診の実施・協力	医師	実施件数	可能な限り多く	571件	596件
退院時診療情報提供書作成の徹底	医師	作成件数	前年度を上回る	16件	38件

II 患者満足の視点 【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

媒体の積極的活用により、患者さんに安心して受診していただける体制を整備します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
日曜乳がん検診の実施	医師・技師・看護師	実施回数・受診者数	2回	2回	2回
ホームページの充実(乳腺センターも含めて)	医師	改訂回数	2回	2回	1回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	乳腺外科	総括責任者	部長	米山 公康
—		副責任者		

Ⅲ 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

医療資源を効率的に活用します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
化学療法の実施	医師	化学療法施行数	前年度を上回る	649件	758件
新規乳癌手術件数の増加	医師	手術件数	前年度を上回る	106件	98件
全麻下手術の増加	医師	手術件数	前年度を上回る	116件	106件
新入院患者数の増加	医師	新入院患者数	141人	162人	119人

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

院内カンファレンスを実施・参加します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
院内術前画像カンファレンスの実施	医師・技師	実施回数	毎週1回	毎週1回	毎週1回
院内乳腺病理カンファレンスの実施	医師・技師	実施回数	毎月1回	毎月1回(12回)	毎月1回(12回)

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

学術活動を推進します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
学会発表	医師	発表数	2回	2回	1回
論文発表	医師	論文数	2本	0本	3本

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	整形外科	総括責任者	部長	加藤 創太
—		副責任者		

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①脊椎・関節・手の外科領域で専門性の高い手術医療を提供します。
②救命救急センター・麻酔科・手術室と連携し、適確かつ迅速な急性期医療を提供します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
手術件数増加による手術室の適正運用の推進	医師	整形外科手術件数	1,100件	1,172件	1,038件

II 患者満足度の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

患者さんにとって安心できる診療体制を整えます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
業務の効率化による外来待ち時間の短縮	医師、外来看護師、事務職	患者一人あたりの平均待ち時間	30分以内	28分	22分

III 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

専門性の高い手術治療および急性期治療を積極的におこない、入院患者を確保すると共に収益の増加を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
開業医および救命救急センターとの連携による新入院患者の確保	医師	年間新入院患者数	1,141人	1,099人	1,047人

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	整形外科	総括責任者	部長	加藤 創太
—		副責任者		

IV 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

職員の能力向上と病院経営の理解に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
学会、院外研修会への参加	医師	参加回数	1人当たり年3回	1人当たり年1.3回	-

V 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

発表などの学術活動の充実を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
学会研究発表	医師	発表数	年4回	3回	4回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	形成外科	総括責任者	部長	杉木 正
—		副責任者	医師	平尾 高行

I 医療の質と効率の視点 【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

クリニカルパスの作成、他診療科との連携強化により、診療の充実を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
眼瞼下垂に対するクリニカルパスの導入	医師、看護師、事務	パス適用件数の増加	20件	24件	0件
乳癌摘出後の乳房再建の開始	医師	手術件数	5件	9件	0件

II 患者満足の視点 【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

患者さんにわかりやすい情報の提供を行います。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
SMILEへの寄稿	医師	寄稿数	1件	1本	0件

III 経営・財務の視点 【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

入院数の増加を図り、経営に貢献致します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
新入院患者数の増加	医師	新入院患者数	120人	106人	76人

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	形成外科	総括責任者	部長	杉木 正
—		副責任者	医師	平尾 高行

IV 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

学会参加を通して能力向上を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
学会参加数の増加	医師	学会参加数	3回	1回	—

V 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

論文執筆を通じて、研究活動を行います。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
論文執筆を通じて、研究活動を行います。	医師	論文発表数	1本	1本	1本

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	皮膚科	総括責任者	科医長	栗原 佑一
—		副責任者		

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

病院として求められる、質の高い、適切な医療提供を目指します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
紹介患者を増やす	医師	新入院患者数	215人	200人	171人
周辺クリニックや病院への広報活動(訪問)	医師・地域連携室	クリニック訪問	10件/年	0件	1件

II 患者満足度の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

検査や病院で求められる治療に重点を置きます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
日帰り手術 待機期間の短縮	医師、看護師	手術待機期間	1ヶ月	1.3ヶ月	1.5ヶ月

III 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

職員のコスト意識の向上と業務効率化によるコスト削減により単価の上昇を目指します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
スタッフミーティングによるコストへの意識を高める	医師、看護師、事務	ミーティング実施回数	2ヶ月に1回	6回	5回
入院治療のパス化を促進する	医師、看護師	パス患者数	45%	26.44%	30.81%
新入院患者数の増加	医師	新入院患者数	215人	200人	171人

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	皮膚科	総括責任者	科医長	栗原 佑一
—		副責任者		

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①知識の充実と技能向上のため、学会への参加や他病院見学を積極的に行います。
②院内研修会に積極的に参加します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
院内研修会への参加	医師	参加回数	年 6回/人	年 4.5回/人	—
学会、講演会への参加	医師、看護師	参加回数	年 2回/人	15回	15回

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

論文、学会発表などの学術活動の充実を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
学会発表	医師	学会発表数	8回/年	10回	9回/年
論文作成	医師	論文数	4編/年	7編	7編/年

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	泌尿器科	総括責任者	科医長	澤田 康弘
—		副責任者		

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①開業医との連携を強化します。
- ②最先端の手術を導入し、実施します。
- ③外来手術を増加します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
紹介患者獲得の為の連携(外来協力)	医師	外来協力回数	週2回	週2回	週1回
手術症例の相互紹介	医師	逆紹介患者数	300人	377人	348人
手術件数の増加	医師	手術件数	500件	470件	486件
外来手術の増加	医師	手術件数	60件	50件	61件
手術支援ロボットの導入・施行	医師	ロボット支援手術の実施	20件	12件	0件

II 患者満足度の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①患者さんに快適な診療環境を提供します。
- ②患者さんにわかりやすい情報発信をします。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
外来待ち時間の短縮	医師	外来待ち時間	前年度比10%短縮	30分	22分
わかりやすいホームページの作成	医師	ホームページ見直し回数	2回	2回	0回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	泌尿器科	総括責任者	科医長 澤田 康弘
—		副責任者	

Ⅲ 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①適切な入院加療を行い、過剰医療を抑制します。
②職員のコスト意識を向上します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
新入院患者の確保	医師	年間新入院患者数	660人	490人	503人
合併症のない手術、効率の良い病棟運営	医師	入院診療単価	前年度比5%増	88,610円	88,622円
適正入院期間での退院	医師	入院期間Ⅱまでの退院（割合）	90%	88.9%	92.6%
業務の効率化による時間外勤務の抑制	医師	1人あたりの時間外勤務時間数（月）	60時間以内	1人当たり76時間54分/月	1人当たり63時間30分/月

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①職員の能力を向上します。
②職員のモチベーションを向上、維持します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
学会・研究会への参加	医師	参加回数	1人あたり年2回	年2回/1人	1人あたり年2回
有給休暇の取得	医師	休暇取得日数	1人あたり年10日以上	1人当たり20.5日	1人当たり11.75日 (R4.3中旬まで)

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	泌尿器科	総括責任者	科医長 澤田 康弘
—		副責任者	

V 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①論文や学会など学術活動を充実します。
- ②市民やクリニックへの啓蒙活動を行います。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
学会発表	医師	発表数	年3回	年0回	年4回
論文発表	医師	発表数	年1回	年0回	年0回
市民向けの講座開催	医師	開催回数	年2回	年0回	年0回
クリニック向けの講座開催	医師	開催回数	年2回	年2回	年0回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	産婦人科	総括責任者	部長	笠井 健児
—		副責任者	部長	藤本 喜展

I 医療の質と効率の視点		【将来構想】50～52ページ
経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標					
①市内診療所、県内病診との連携を主導します。 ②効率的な業務に努めます。 ③ロボット手術の稼働に向けて準備を進めます。					
目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
平塚市産婦人科医会の運営(会長職)	医師	紹介率	78%	71.99%	74.79%
神奈川県産科婦人科医会参加 (総務部・周産期部)	医師	紹介率	78%	71.99%	74.79%
HP改訂、チラシ発行などで情報発信し、紹介患者を確保	医師	紹介率	78%	71.99%	74.79%

II 患者満足度の視点		【将来構想】53～55ページ
経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標					
①快適な出産環境を提供します。 ②新型コロナウイルス関連分娩に対応いたします。 ③わかりやすい情報発信に努めます。					
目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
母体搬送の積極的受け入れ	医師・助産師	受け入れ患者数	30件	38件	24件
周産期救急の受け入れ	医師・助産師	受け入れ患者数	320件	255件	300件
婦人科救急の受け入れ	医師・助産師	受け入れ患者数	40件	36件	39件
手術説明書等の内容見直し	医師	見直した書面の種類	10種	11種	なし

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	産婦人科	総括責任者	部長	笠井 健児
—		副責任者	部長	藤本 喜展

Ⅲ 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①新たな入院患者の確保により、医業収益の向上を図ります。
- ②職員のコスト削減意識を賦活し、コスト削減に務めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
病診連携による新入院患者の確保	医師	新入院患者数	1,200人/年	865人	1,005人/年
腹腔鏡下子宮全摘術、悪性腫瘍手術実施推進による入院診療単価の増加	医師	入院診療単価	85,000円	86,028円	79,885円
時間外勤務時間の削減	医師	平均時間外勤務時間数	40時間	46時間18分	47.2時間

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①所属を越えたりエゾン教育で、新人職員の能力向上を支援します。
- ②病院経営の理解に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
学会、研修会への参加（リモート環境下）	医師	参加回数	5回	5～6回	3～5回
新人指導を目的とした勉強会	医師・看護職	開催回数	3回	2回	2回

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①学会発表、論文投稿など、学術活動の充実を図ります。
- ②医学生の臨床実習を積極的に受け入れます。
- ③健康、医療に関する市民の関心にお応えします。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
学会発表	医師	発表数	3回	3回	2回
論文投稿	医師	投稿数	3編	0編	0編
当科志望医学生の臨床実習受け入れ	医師	受け入れ学生数	3人	3人	2人
市民向け講座の開催（開催形式次第）	医師	開催回数	2回	0回	0回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	眼科	総括責任者	部長	白石 亮
—		副責任者		

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

開業医との連携を深め、地域医療の充実を目指します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
紹介患者獲得のため、医師会眼科部会への参加等	医師	参加回数	1～2回	1回	0回
開業医との連携による逆紹介の推進	医師	逆紹介率	140%	90.13%	120.64%

II 患者満足度の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ① 診療、検査、手術待ち時間の短縮に努め、患者満足度向上に努めます。
- ② 白内障手術の入院日数を多様化して、患者満足度向上に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
1泊2日の実施率	医師	1泊2日入院の症例割合	70%	86.0%	65.7%

III 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

手術患者を確保することで、入院稼働額増を目指します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
新入院患者の増加	医師	新入院患者数	250人	193人	179人

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	眼科	総括責任者	部長	白石 亮
—		副責任者		

IV 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

外来スタッフの能力向上に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
科内勉強会・カンファレンス	医師、看護師、視能訓練士等	開催数	月1回	4回	2回

V 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

眼科医療に関心のある学生の育成に貢献します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
眼科医療に関心のある学生の受入れ	医師、視能訓練士	受入人数	1人	0人	0人

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	耳鼻咽喉科	総括責任者	部長	杉木 正
—		副責任者	医長	野口 勝

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

近隣医院との連携を深め、病診の機能分化を推進します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R2実績
開業医との連携による紹介患者の確保	医師	紹介率	70%	74.58%(490人/657人)	73.71%(356人/483人)
開業医との連携による逆紹介の推進	医師	逆紹介率	60%	37.75%(248人/657人)	69.15%(334人/483人)

II 患者満足度の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

投薬、手術以外の方法で患者さんのQOLを上げる為の取り組みを行います。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
耳鼻科リハビリテーションに関する説明書の作成	医師	説明書作成件数	2件	2件	0件
補聴器外来の設置	医師	補聴器外来の開始	補聴器外来の開始	開始	なし

III 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

収入確保による健全な病院経営に寄与します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
入院患者の確保	医師	新入院患者数	170人	106人	0人
手術患者の確保	医師	全身麻酔手術件数	70件	60件	0件

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	耳鼻咽喉科	総括責任者	部長	杉木 正
—		副責任者	医長	野口 勝

IV 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①院内外の研修会に積極的に参加し自己研鑽を行います。
- ②院外への研修会に対しては積極的に休暇を取得し参加します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
院内外の研修会への参加・実施	医師	研修会の回数	4回	2回	0回
年5日以上の年次有給休暇取得	医師	一人あたりの取得日数	5日/人以上	平均9.5日/人	0回

V 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①地域の学術活動や講演会への参加・発表を行います。
- ②近隣医院への訪問を行い、地域のニーズにあった医療を探求します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
学会・研究会・講演会での参加・発表	医師	参加・発表回数	4回	1回	0回
近隣医院への訪問	医師	訪問回数	9回	3回	0回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	リハビリテーション科 リハビリテーション技術科	総括責任者	科部長 科長	加藤 創太 金野 千帆
—		副責任者	科長代理	大塚 敬三

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

ICU・CCU・救急病棟において超急性期リハビリテーションを実施します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
ICU・CCUでのリハビリテーション実施単位数	医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士	実施単位数	1,000単位	826単位	1,034単位
早期・リハビリテーション加算の導入	医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士	新規加算算定の判定	1件	1件	なし
早期・リハビリテーション加算算定	医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士	加算算定者件数	100件	2,680件	なし

II 患者満足度の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

リハビリテーション専門医師等によるリハビリテーション診察を実施し、計画的にリハが施行出来るよう努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
リハ医等によるリハ診察の実施	医師	診察人数	1,300人	993人	1,348人

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	リハビリテーション科 リハビリテーション技術科	総括責任者	科部長 科長	加藤 創太 金野 千帆
—		副責任者	科長代理	大塚 敬三

Ⅲ 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

指示・実施単位数や加算の積極的な取得により収入を確保します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
リハビリテーション科全体の実施単位数	医師、理学療法士、 作業療法士、言語 聴覚士	単位数	40,000単位	49,855単位	43,651単位
理学療法士の実施単位数	理学療法士	単位数	25,000単位	29,668単位	28,909単位
作業療法士の実施単位数	作業療法士	単位数	9,000単位	11,129単位	9,650単位
言語聴覚士の実施単位数	言語聴覚士	単位数	7,500単位	9,058単位	5,092単位
リハビリテーション総合実施計画書の 作成及び算定	医師、看護師、 理学療法士、作業 療法士、言語聴覚 士	件数	2,300件	2,647件	2,276件
退院時指導の算定	理学療法士、作業 療法士、言語聴覚 士	件数	1,300件	1,126件	1,261件

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得 （職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

疾患別リハビリテーション算定に必要な資格取得者を育成します。
実習生指導に必要な人材を育成します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
心臓リハビリテーション・呼吸器リハビリテー ション・がんリハビリテーション算定に必要な 資格取得の推奨	理学療法士・作業療 法士・言語聴覚士	資格取得者人数	2人	3人	1人
実習指導者資格取得の推奨	理学療法士・作業療 法士・言語聴覚士	資格取得者人数	2人	7人	2人

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、 地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

学生教育に貢献します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
実習生受入れ	理学療法士・作業療 法士・言語聴覚士	実習生受入数	5人	5人	5人

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	放射線診断科	総括責任者	部長	屋代 英樹
—		副責任者	主任医長	小林 真紀子

I 医療の質と効率の視点		【将来構想】50～52ページ
経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①CT・MRIを初めとする画像診断機器の有効的活用による検査数の増加と、共同利用数の増加を図ります。
 ②画像診断管理加算2体制の維持による臨床医への速やかな検査結果報告による医療の質向上を図ります。
 ③ドクターズクラーク導入によるワークシェアなどによる医師の事務作業時間の短縮、時間外労働の減少を目指します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
CT検査予約待ちの解消の体制を維持する	医師、放射線技師	検査予約待ち日数	即日実施	即日実施	即日実施
MRI検査予約待ちの短縮を図る	医師、放射線技師	検査予約待ち日数	ルーチン即日実施 精査3日	脳脊1日 精査1日	ルーチン1日 精査5日
紹介患者獲得のための開業医への連携強化	医師、放射線技師 地域連携室	紹介数	委託検査数維持	2,197件	2,188件
画像診断管理加算2体制の維持	医師	翌診療日読影率	80%以上	96.92%	96%
医師の事務作業時間の短縮	医師、ドクターズクラーク	時間外労働時間	放射線診断科平均時間外 45時間以下	48時間19分	51時間12分

II 患者満足度の視点		【将来構想】53～55ページ
経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①土曜日・日曜日のMRI委託検査の実施により地域医療へ貢献します。
 ②夜間・休日読影により質の高い救急医療へ貢献します。
 ③緊急IVR体制の確保により安心できる救急医療を提供します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
土曜日・日曜日MRI委託検査の実行	医師・放射線技師	MR検査委託数	MR委託検査維持	666件 (MRI工事のため減枠あり)	711件
夜間・休日読影	医師	夜間休日読影率	80%以上	100%	100%
緊急IVR応需体制維持	医師・放射線技師 看護師	緊急・準緊急IVR件数	60件以上	170件	125件

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	放射線診断科	総括責任者	部長	屋代 英樹
—		副責任者	主任医長	小林 真紀子

Ⅲ 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①大血管センター、血管センターの一員として協力体制の元、ステントグラフト治療、血管形成術を行い、心臓外科・血管外科の入院診療単価の向上を目指します。
 ②IVR-CTを利用した高度な治療の提供により、肝動脈化学塞栓術・肝RFA術の手技を施行し診療単価の向上を目指します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
ステントグラフト治療数	医師	手術数	30件以上	47件	18件
肝動脈化学塞栓術	医師	手術数	40件以上/年	26件	37件
血管形成術	医師	手術数	60件以上/年	84件	81件
肝腫瘍ラジオ波焼灼術・マイクロ波凝固術	医師	手術数	10件以上/年	5件	8件

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①放射線診断科職員の放射線診断専門医、IVR専門医取得・維持を行い、画像診断管理加算2の取得体制やIVR応需体制を維持します。
 ②多職種への注射技術の指導をおこないワークシフトを促進します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
放射線診断専門医維持のための学会参加	医師	参加数	規定の参加ポイントの取得	10回	8回
IVR専門医取得・維持のための学会参加	医師	参加数	規定の参加ポイントの取得	2回	2回
院内にて静脈注射講習会を行い、看護師・臨床研修医師・診療放射線技師の静脈注射技術の向上を図る	医師	講師回数	合計2回	合計2回	2回
IVR関連の学会発表を行い、関連科を含め他IVR研修希望の常勤医確保を図る	医師	学会発表数	筆頭・共同含め4回	8回	9回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	放射線診断科	総括責任者	部長	屋代 英樹
—		副責任者	主任医長	小林 真紀子

V 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①学会発表による知見の普及を図ります。
- ②看護大学校における講義を行い、地域における当院の役割や、放射線診療の実態周知に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
学会発表・論文発表	医師	発表数	筆頭として4回	8回	5回
看護大学校での放射線科講義の実施による教育への協力	医師	講座数	1回	0回	1回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	放射線治療科	総括責任者	部長	今宮 聡
—		副責任者	主任医長	早田 格

I 医療の質と効率の視点		【将来構想】50～52ページ
経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①高精度照射症例割合の維持・増加および治療計画期間の短縮を図ります。
- ②光学的患者ポジショニングシステムによるセットアップ精度の向上、CBCTと合わせてIGRT割合の増加を図ります。
- ③左乳癌術後照射の深吸気息止め照射(DIBH)を年度内に開始します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
VMAT(強度変調回転照射)症例数、割合の増加	医師・技師	VMAT症例数、割合	90例、40%	56件、31.2%	61例、29%
VMATと定位放射線治療の治療計画期間(CT撮影から治療開始まで)の短縮	医師・技師	治療計画期間(日数)	約7日	約9日	約10日
左乳癌術後照射の心臓被曝低減のためDIBH(深吸気息止め照射)導入	医師・技師	DIBH症例数	5件	13件	0件
日本放射線腫瘍学会認定施設Bの取得	医師・技師	認定施設B取得	認定施設B取得	認定施設B取得	認定なし
関連各診療科との症例検討会参加	医師	症例検討会参加継続	2領域継続	3領域(消化器、呼吸器、泌尿器)	2領域(呼吸器、消化器)

II 患者満足度の視点		【将来構想】53～55ページ
経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①患者さんや家族への解りやすい説明をします。
- ②初診から治療開始までの期間を短縮します。
- ③照射に伴うストレスや障害を低減します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
学会作製ビデオなど放射線治療説明の上映継続および改訂	医師	上映継続可否、改訂成否	上映継続、改訂1回以上	DIBH説明ビデオを含み3件追加	上映継続、改訂1回
放射線治療説明書の改訂	医師	改訂数	8件	8件	10件
光学的患者ポジショニングシステムによるマーカースセットアップ	医師・技師	マーカースセットアップ開始	マーカースセットアップ開始	現状システムでは実行不可	なし
VMATと定位放射線治療の治療計画期間(CT撮影から治療開始まで)の短縮	医師・技師	治療計画期間(日数)	約7日	約9日	約7～10日
左乳癌術後照射の心臓被曝低減のためDIBH(深吸気息止め照射)導入	医師・技師	DIBH症例数	5件	13件	0件

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	放射線治療科	総括責任者	部長	今宮 聡
—		副責任者	主任医長	早田 格

Ⅲ 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

治療単価を増加させます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
VMAT(強度変調回転照射)症例数、割合の増加	医師・技師	VMAT症例数、割合	90例、40%	56件、31.2%	61例、29%
VMATと定位放射線治療の治療計画期間(CT撮影から治療開始まで)の短縮	医師・技師	治療計画期間(日数)	約7日	約9日	約10日
左乳癌術後照射の心臓被曝低減のためDIBH(深吸氣息どめ照射)導入	医師・技師	DIBH症例数	5件	13件	0件
IGRT(画像誘導放射線治療)の件数増加	医師・技師・医療事務	IGRT算定数	160件	137件	147件
IGRT(画像誘導放射線治療)の請求点数増加	医師・技師・医療事務	IGRT加算の高点数化	平均320点	平均280点	平均301点

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度(やりがい度)の獲得(職場環境、研修・教育、評価と処遇改善)
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

治療スキルの向上に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
放射線治療関連学会参加	医師・技師	参加回数	3回以上	3回	3回
ユーザーミーティングや治療関係講習参加	医師・技師	参加回数	5回以上 (COVID-19感染状況による)	4回	4回

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献(災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など)
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

市民講座や院外研究会などでの当院放射線治療科に対する認知を進めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
市民講座や院外研究会などへの参加	医師	参加回数	1回以上	0回	1回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	救急科・救急外科 救命救急センター	総括責任者	救命救急 センター長	葉 季久雄
病棟名	救命救急センター (救急外来・救急病棟)	副責任者	看護師長	面田 利文

I 医療の質と効率の視点		【将来構想】50～52ページ
経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①救命救急センターとして、「断らない救急医療」を実践します。 ②生命の危機に瀕した重症患者を受け入れます。
 ③救命救急センター内の職種を越えた連携を図り、よりよいチーム医療を実践します。
 ④重症患者の治療にあたり、『多職種回診』を行いチーム医療を実践します。 ⑤地域救急隊との連携を向上させます。
 ⑥地元医師会と連携し、救急医療と在宅医療の連携をはじめます。 ⑦RRS(rapid response system)の定着をめざします。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
近隣消防本部への挨拶回り	医師・事務(医事課)	訪問回数	2回	1回	2回
救急患者受入数／応需率	医師	受入患者数	9,000人／98.0%	10,703人／98.0%	9,494人／98.2%
救急搬送患者入院数／救急搬送患者入院率	医師	受入患者数のうち入院した患者の率	2,880人／32.0%	3,259人／30.4%	2,995人／31.5%
年間重篤患者数（厚生労働省「救命救急センターの充実段階評価」）	医師	重篤患者数	1,150人	1,139人	1,111人
ハイケアユニット用の重症度、医療・看護必要度の基準を満たす患者の入院割合	医師	重篤患者数	35%	53.9%	26.7%(特定集中治療室)
救命救急センター会の開催	医師・看護師	救命救急センター会の回数	月1回	月1回	月1回
多職種カンファレンスを行う	医師・看護師・薬剤師・リハビリ技師・MSW・管理栄養士	カンファレンスの回数	週1回	週1回	週1回
救急事例検討会の開催	医師・事務(医事課)	開催回数	3回	1回	コロナのため0回
救急医療と在宅医療の連携会議	医師会・医師・事務	会議参加数	1回	コロナのため0回	コロナのため0回
RRS定着にむけての講習会の開催	医師・看護師	講習会開催回数	2回	2回	未実施
RRS(外来＋病棟)起動件数	医師・看護師	RRS起動件数	20件	外来19件 病棟23件	5件
院内トリアージ件数の増加	医師・看護師	トリアージ件数	小児360件 成人1,100件	小児394件 成人997件	小児213件 成人1,025件

II 患者満足の視点		【将来構想】53～55ページ
経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①救命救急センターとして、「断らない救急医療」を実践します。
 ②救命救急センターとして、救急医療に関する情報を発信します。
 ③接遇を向上させると共に、受診時間の短縮に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
救急隊からの受入れを促進する	医師	応需率	98%	98.0%	98.2%
様々なツール（病院本、Smile!・ホームページ）を通じた広報活動	医師・看護師	情報発信したツール数	1件	0件	0件
接遇を向上させる	医師・看護師	クレーム数	10件未満	看護師2件	医師1件

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	救急科・救急外科 救命救急センター	総括責任者	救命救急 センター長	葉 季久雄
病棟名	救命救急センター (救急外来・救急病棟)	副責任者	看護師長	面田 利文

Ⅲ 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①救急搬送件数を増加させます。
- ②入院患者数(軽症経過観察・重症集中治療)を増加させ、入院稼働額の増加をめざします。
- ③コロナ禍における救急病棟の効率的運用方法を見出します。
- ④救急外来スタッフのコスト意識の向上を図ります。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
救急患者受入数増加 とくに重症患者受入数増加(救急外来)	医師	受入患者数	9,000人	10,703人	9,494人
重症患者を中心とした入院管理を行い、入院稼働額をあげる	医師	入院診療単価	115,000円 (救急科・救急外科)	救急課125,132円 救急外科150,364円	救急科140,820円 救急外科113,972円
重症患者を中心とした入院管理を行い、入院稼働額をあげる	医師	入院患者数	100人・40人/年 (救急科・救急外科)	救急科120人 救急外科39人	救急科 198人 救急外科 47人
救急病棟の入院稼働率(利用率)上昇	医師・看護師・事務	病床利用率	60% (空床の3床を運用しているとして80%)	73.5% (稼働病床ベース)	57.8%
救急病棟の入院稼働額上昇	医師・看護師	入院診療単価	140,000円	164,762円	171,213円

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度(やりがい度)の獲得 (職場環境、研修・教育、評価と処遇改善)
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①院内研修会への参加により、他分野の見識を深めます。
- ②専門職としての自己研鑽に努め、教育や研究活動に参加します。
- ③救命救急センターとして救命処置の院内教育に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
院内研修会への参加	医師・看護師	参加数	1人あたり4回	1人あたり4.6回	1人あたり2回
看護研究の立案、実践	看護師・医師	行う看護研究の数	1件	0件	0件
働きやすい職場環境の調整	看護師	離職率	5%未満	2.6%(2名)	0
院外研修会への参加	医師・看護師	参加数	1人あたり1回	外来1.1回/人 病棟0.5回/人	1人あたり1回
JTASを受講する	看護師(ER)	参加数	2人	3人	0人
院内BLSの開催	医師・看護師	院内BLSの開催回数	月1回(8月以外)	9回	月1回(8月以外)

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	救急科・救急外科 救命救急センター	総括責任者	救命救急 センター長	葉 季久雄
病棟名	救命救急センター (救急外来・救急病棟)	副責任者	看護師長	面田 利文

V 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

- ①救急ワークステーション(救急WS)を通じて、重症傷病者に対する病院前からの医療に参画します。
 ②災害に即応できる体制、能力を構築します。
 ③救急救命士の実習を受け入れ、育成に努めます。
 ④学生教育を受け入れ、学生に救急医学に関心を持ってもらいます。
 ⑤認定看護師・看護師の能力を活かした健康教育を行います。
 ⑥論文、学会発表を通じ、academic emergency physician, academic acute care surgeon, academic ER nurse としての地位を確立します。
 ⑦医療系学生もしくは中高生へ向けた「救命救急センター」紹介・体験企画を行い、興味・関心を持ってもらいます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
救急WSでの出勤	医師・看護師	救急WS出勤件数	150件	154件	142件
災害訓練への参加	医師・看護師・薬剤師・技師	訓練参加数	2件	1件	0件
救急救命士の病院実習を受け入れる	医師・事務	受け入れ救急救命士数	85人	84人	76人
医学部学生の臨床実習を受け入れる	医師	受け入れ学生数	32人	32人	33人
論文発表、学会発表を通じたacademismの獲得	医師	論文数	1(共著者含む)	2(共著者含む)	7(共著者含む)
論文発表、学会発表を通じたacademismの獲得	医師・看護師	学会研究発表数	8(共同演者含む)	25(共同演者含む)	39(共同演者含む)
認定看護師・看護師による健康講座の開催 市民への講演・看護学生への講演	看護師	講演数	3回	6回	2回
医療系学生(中高生)向け見学企画『ひらつかER 救命救急センター 24時』の開催	医師・看護師・事務	開催数	1回	0回	0回

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	麻酔科	総括責任者	部長	中川 基人
病棟名	手術室	副責任者	医長	唐木田 曜

I 医療の質と効率の視点

【将来構想】50～52ページ

経営戦略	(ア) 高度な医療	質の高い高度医療の提供 地域に根ざした急性期・救命医療の実施
	(イ) 地域医療	地域医療連携の充実と指導的役割
	(ウ) チーム医療	チーム医療と診療科連携の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

質の高い高度医療の提供に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
全身麻酔件数の増加	医師	全身麻酔件数	3,000件	3,162件	2,829件
麻酔管理料 I 算定件数の増加	医師	麻酔管理料 I 算定件数	新規項目	677件	554件

II 患者満足度の視点

【将来構想】53～55ページ

経営戦略	(ア) 患者さんや市民の皆さんのために尽くす役務の提供	政策的医療の実現 患者満足度の高い役務の提供
	(イ) 情報発信	地域住民への情報発信の充実

「経営戦略」実現のための行動目標

患者さんの痛みを和らげたり麻酔について説明をします。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
神経ブロックの実施	医師	神経ブロック実施件数	250件	337件	206件
術前後の対面診察	医師	対面診察をした患者数	新規項目	0件	0件

III 経営・財務の視点

【将来構想】56～61ページ

経営戦略	(ア) マネジメント	健全経営の実施
	(イ) 職員の意識改革	全職員の経営参画への意識醸成

「経営戦略」実現のための行動目標

職員給与費対医業収益比率の改善に努めます。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
業務調整による非常勤医師時間外勤務の削減	医師	年間時間外勤務時間数	369時間(10%減)	194.75時間	410時間
保険診療について査定対応、詳記入力	医師	対応数、入力件数	新規項目	算定不可	0件

職員行動計画書

【令和4年度】

科名	麻酔科	総括責任者	部長	中川 基人
病棟名	手術室	副責任者	医長	唐木田 曜

Ⅳ 職員の学習と成長の視点

【将来構想】62～63ページ

経営戦略	(ア) 教育	職員の能力向上支援と職員満足度（やりがい度）の獲得（職場環境、研修・教育、評価と処遇改善）
------	--------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

麻酔科手技で看護師がどう介助するのが適切か、写真を交えて講義します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
学習会	医師	開催回数	1回	1回(心外手術)	0回

Ⅴ 社会貢献の視点

【将来構想】64～66ページ

経営戦略	(ア) 社会貢献	病院診療外の社会貢献（災害医療、プレホスピタル医療、地域貢献活動、研究活動、学生教育など）
------	----------	---

「経営戦略」実現のための行動目標

学会活動を行い、学術面での最新の知見を積極的に取り入れます。救命士の挿管実習を受け入れ、予後改善に協力します。

目標達成のための行動計画	計画実行者	成果指標	R4目標値	R4実績	R3実績
麻酔関連学会の参加、講義視聴	医師	参加数、受講数	10回	5回	5回
救命士挿管実習の指導	医師	挿管手技の指導	新規項目	12名	12名